

普及活動情勢報告（平成 26 年 7 月分）

安芸農業振興センター

情勢報告

防げ芯止まり！オクラ中芸・室戸合同現地検討会



芯止まりを防ごう！

6 月 26 日、J A 土佐あき中芸出荷場と室戸支所オクラ部会の合同現地検討会が開催され 17 人が参加しました。圃場 2 ヶ所を巡回し、振興センターは資料を使って今後の栽培管理について説明しました。生産者からは、「夕方収穫した時の管理方法はどうしているのか」等の質問が出されました。

今後、J A と協力して 7 月に現地検討会を開催し、基本的な栽培管理の徹底を図り、安定した収量が確保できるよう指導します。

複合エコ環境制御技術で更なる増益を！ ～26 年度現地実証試験計画打合せ～



現地実証試験の打合せ

6 月 27 日に芸西村のピーマン圃場で実証農家、空調機メーカー、高知大学、県農業技術センターら 14 人が集まり、今年度の「複合エコ環境制御技術確立事業」現地実証試験について打合せを行いました。

3 か年の事業で 26 年度が最終年度となります。25 年度は CO₂ 施用で芸西村平均単収を約 20% 上回り目標を達成できました。今作はエコキュートを利用した暖房、CO₂ 濃度と温湿度の調整により、省エネと更なる増収を図る計画が決まりました。

振興センターは現地実証試験の成功に向け、関係機関と連携しながら実証農家を支援します。

目指せ収量アップ！東洋町農業研究会



環境制御技術の情報提供

6 月 30 日、東洋町役場で、生産者 12 人と関係者が集まり東洋町農業研究会総会が開催されました。平成 25 年度の活動実績及び収支決算等の報告後、振興センターから「環境制御技術」について説明しました。参加者からは「15 t / 10 a の人に効果あっても 18 t / 10 a の人が使っても収量アップするのか」といった声が聞かれました。

今後、振興センターでは研究会で環境制御技術の情報提供をしながら、同技術の導入を進めていきます。

地元のナスを勉強しよう ～羽根小学校出前授業～



羽根ではこんなにナスを作っています

7 月 2 日、振興センターと芸東営農センターは J A 土佐あき消費拡大連絡協議会芸東支部の活動として、羽根小学校 3 年生 8 人を対象に、ナスの収穫体験授業を行いました。振興センター職員がナスの育苗から栽培終了までの作業について説明し、子ども達はナスを作るための農家の努力や作業の大変さを理解しました。その後、生産者のハウスへ行きナスを収穫しました。1 人 1 枚ずつ配られた袋に、体と同じくらいの大きさになるまで収穫した子どももいました。

今後は冬期に、ポンカンで出前授業を行い、地元農産物を理解してもらう予定です。

各集落営農組合で稲作栽培検討会が開催される



馬路村愛稲の会での現地検討会

7月2日田野町東大野集落営農組合10人、17日北川村くぶつけ集落営農組合3人、18日馬路村愛稲の会9人が参加して各地区の稲作講習会と現地検討会が開催されました。

振興センターは、現在の生育状況や病虫害状況を見て、これからの病虫害の薬剤を紹介して防除作業や雑草対策を指導しました。各地区とも普通期作型なので、出穂する8月にも現地検討会の開催要望がありました。

今後は、8月に現地検討会を開催し、収量・品質向上につながるよう支援します。

「集落営農とは？」 ～集落営農研修会～



「集落営農」って何？

7月4日、管内の中山間地域等直接支払及び多面的機能支払の組織代表者や関係機関の35人が出席し、集落営農研修会を開催しました。

地域農業推進課から集落営農の必要性や他県の集落営農組織の設立経過について説明し、続いて振興センターは管内の集落営農組織の活動を紹介しました。

出席者からは、「集落営農組織設立によるメリットは？」、「農産物をどのように販売しているのか？」、「今後、集落営農組織の設立を考えている」といった質問や意見が出されました。

振興センターは、今後も研修会や集落座談会などを通して、集落営農を推進していきます。

J A土佐あき柚子部 東川支部 ユズ勉強会の開催



どればあ摘果しようかねえ

7月7日、J A土佐あき東川支部で、生産者21人が参加して勉強会が開催されました。

振興センターからは、注意が必要な病虫害や摘果等について資料を用いて説明しました。あいにくの天気で、摘果等の実演はできませんでしたが、生産者からは多くの質問・意見が出され、活発な勉強会となりました。

また、今回は鳥獣被害対策専門員を招き、鳥獣被害の実態や鳥獣被害から作物を守るためのポイント等の説明をしてもらうことで、鳥獣被害対策についての知識が深まりました。

今後も、振興センターは部会、JAと連携し、青果の収量・品質向上を支援します。

「集落営農とは？」～北川村小島地区の説明会～



じっくりと聴き、集落営農で何ができる？

7月8日、北川村中部地区活性化協議会に8人が参加し、集落営農に関する勉強会を開催しました。

同協議会は北川村温泉前で直販市を開いたり、休耕田を借り受けて景観作物で集客効果を狙ったりして地域おこしをしています。

振興センターが、集落営農の利点や留意点を説明したところ、「景観用作物に補助はあるか」、「直販市の整備にこの補助が使える」等の質問や意見が活発に出了ました。

今後は、景観作物や水稻栽培を通じて組織に関与し、集落営農組織の立ち上げに向けて支援していきます。

「環境制御元年」の締めくくり！試験展示圃成績発表会と講演会を開催！



講演される西村先生

7月14日、JA土佐あき本所で、77人の生産者や関係者が参加してJA土佐あき園芸研究会主催の『試験展示圃成績発表会』が開催されました。

全25課題の中からナスやピーマンでのCO₂施用の増収効果が顕著な5課題について生産者、営農指導員、普及指導員が発表し、活発な意見交換が行われました。

引き続き、高知大学農学部西村先生による『見直そう！施設園芸における土づくり』と題した講演が行われ、「もっと先生の話を知りたい」などの感想が聞かれました。今後、振興センターでは環境制御技術の確立に向けて取り組んでいきます。

新規就農者の育成支援 ～農業基礎研修講座～



使用方法を守るとは自分の身も守ること

振興センターは新規就農者等の基礎技術の習得を目的とした「農業基礎研修講座」を7月15日に開講し、23人が参加しました。第1回目は「農薬の使用と管理」をテーマに振興センター職員が講義を行いました。参加者からは「守らなければならない事がちゃんと分かって勉強になった」、「知らなかった、では通用しないという事を学べた」などの感想があり、農薬の安全使用への意識向上につながりました。

今後は栽培管理や経営などに関する講義や現地研修を、2月まで月1回のペースで行い、新規就農者の基礎技術向上を支援します。

東川酒米研究会現地検討会 ～第2回現地検討会～



草の正確な名前を知ります

7月16日、東川酒米研究会に9人が参加し毎月の定例会となっている現地検討会が開催されました。

振興センターは現地を巡回しながら、気候と生育状況を解説し、病虫害防除について指導しました。また、あらかじめ調査しておいた葉色により、出穂時期や穂肥指導を行いました。

「正確な雑草名を知っちゃかないかん」、「今年は皆、稲がきれいや」等の意見が出て活発な会となりました。

次回は、8月19日に現地検討会を行う予定で今後も酒米の技術向上を支援します。